

ぶらたなす

NO.2

皐月

(さつき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2025.5.28

読書のメリット



図書館長より

新緑がまぶしい5月も終わろうとしています。ゴールデンウィークが明けて、やる気が出なかったり、疲れが取れないなどいわゆる五月病の傾向がみられませんでしたか。読書は、科学的に裏付けられたストレス軽減効果を持つそうです。寝る前や休憩などの僅かな時間にでも読書をすれば、蓄積されたストレスも緩和し、心に余裕ができるかもしれません。また、読書には独力や知識が身につくといった学習面だけではなく、論理的な思考力や集中力が養われるといわれています。このように読書から得られる効果は豊富にあります。短い時間からでも得られるものは大きいので、一冊からでも読んでみてはいかがでしょうか。

(2-2 図書委員)

図書委員のおすすめの本

『蜜蜂と遠雷』

恩田 陸：著

幻冬舎
国際ピアノコンクールを舞台に4人の若きピアニストたちが出会い、成長していく物語です。それぞれが抱える過去や葛藤と向き合いながら互いに刺激を受け、自らの音楽を見つけていきます。音楽に懸ける思いと心の変化が繊細に描かれ、読者の心に深く響きます。また、直木賞と本屋大賞をダブル受賞し、2019年には映画化もされました。音楽が好きな人はもちろん、夢に向かって努力する姿や人とのつながりに心を動かされる人にもおすすめの作品です。読み終えた後はきっと温かい感動が胸に残ると思います。ぜひ手に取って読んでみてください。

(2-2 図書委員)

押忍！ 図書館長です。今回紹介するのは、山辺町出身の新人作家・城戸川りょう（きどかわ・りょう）のデビュー作『高宮麻綾の引継書』（文藝春秋）だ。発売後瞬く間に版を重ね、現役商社マンでもある城戸川ならではの筆致でビジネスマンが「会社」や「仕事」に抱く愛憎をリアルに描き出していると評判の本作だが、私はやはり、それらを舞台装置としたミステリ小説だと思う。

同郷のよしみで歯に衣着せずと言わせてもらえば、ビジネス小説や（若手社員の）成長小説としては、若干物足りなさを感じた。確かに、専門用語（と注釈）だらけになったり、（成長前と後とのギャップを深めるためとは言え）高宮の短所を強調し過ぎたりすると、読者が早々に読むのを止めてしまうので、匙加減が難しくはあるのだが。

それでも、処女作でこれだけのクオリティ（と商業的成功）を叩き出すとは、並の才能ではない。次作も高宮が主人公、つまり本作の続編らしいので、本作との比較は、完全新作をそうするよりは容易なはずだ。高宮の更なる成長以上に、郷土の星・城戸川のそれを、僭越ながら、今から楽しみにしている。

『Y T S ゴジダス』の特集によれば、城戸川の筆力の原点は、高校時代に部活動で書き溜めた「フェンシングノート」だそうだ。自身は映されなかったが、想像するに、決して「思い通り」にはならない自身や仲間や敵手、つまり現実を観察し、どうすれば理想に近付けられるかを考察し、その成果を、今日の、そして明日の自分に向けて、ことばへと結晶させたものではないだろうか。経験という名の砂金を一粒たりとも取りこぼすまいとする貪婪さで、片田舎のお喋り好きな少年は、長じて文壇の寵児となった。

どこで読んだかは内緒だが、城戸川の学生時代の文章も、軽妙で面白かった。彼の本質は、「東大OB」でも「商社マン」でも「作家」でもなく、終生「お喋り好き」に違いない。